

授業科目名	教育の方法と技術	教員名	中山 迅 小林 博典	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	必修
科目番号	SID207	配当年次	2年前期		幼稚園教諭	必修
					保育士	選択
授業形態	講義				こども音楽療育士	
単位数	2単位				情報処理士	必修
科目						
施行規則に定める科目区分						
一般目標	<p>全体目標： 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>(1)教育の方法論 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。</p> <p>(2)教育の技術 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。</p> <p>(3)情報機器及び教材の活用 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p>					
到達目標	<p>(1)教育の方法論</p> <p>1)教育方法の基礎的理論と実践を理解している。</p> <p>2)これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解している。</p> <p>3)学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。</p> <p>4)学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ※幼稚園教諭は「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。」</p> <p>(2)教育の技術</p> <p>1)話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。</p> <p>2)基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。</p> <p>(3)情報機器及び教材の活用</p> <p>1)子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 ※幼稚園教諭は「子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。」</p> <p>2)子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている、6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	<p>今日、学校教育においては、児童の発達段階や個性に応じた様々な教育の方法及び技術が求められる。また、情報機器を活用した効果的な授業を行い、情報活用能力を育成するため、電子黒板などのICT機器の活用方法及び技術を習得することが重要である。</p> <p>本講義では、教育目標に向かって子どもの成長発達を促すための授業構成と学習構成の理論的な理解、そして具体的な教育の方法・技術について学習する。そして、子どもの学びを促進する授業・学習の理論的理解と教育の方法と技術を習得する。さらに講義の終盤では、学習指導案や部分実習指導案の作成を通して、授業の目標、内容、指導、評価に関する理論的知識の習得とともに、望ましい教育方法の在り方を研究する。授業形態は講義とする。アクティブラーニングとして、振り返り、レポート等を取り入れる。</p>					
履修条件・注意事項						

授業計画

- 第1回：児童生徒は何を学ぶのか？（中山迅）
 現行の学習指導要領を方向付けた中央教育審議会答申（第197号）を通して、「知識」とは何か、「学力」の現代的な定義とは何か、などについて学ぶ。
 （目標（1）-1、（1）-2）
- 第2回：国際的に求められている学力と日本の現状はどのようなものか？（中山迅）
 OECDのPISAの評価枠組から国際的に求められている学力のあり方を理解し、PISAだけでなく、国際数学理科教育状況調査の結果とあわせて、国際的に見た日本の児童生徒の学力の現状と課題を理解する。
 （目標（1）-1、（1）-2）
- 第3回：思考力・判断力・表現力の基盤となる読解リテラシーはどのように育成するのか？（中山迅）
 読解リテラシーとは何か、事実、意見、感想の区別とは何か、それほどの教科を通して学ばれるのか等について検討し、思考力・判断力・表現力の基盤となる読解リテラシーを教科横断的に育成する方法について検討すると同時に、日本における評価の観点などについても理解する。
 （目標（1）-1、（1）-2、（1）-4）
- 第4回：「授業」とは何か？ 授業で何をめざすのか？（中山迅）
 そもそも「授業」とは何か、授業を構成する要素とは何か、授業をつくるために教師は何を行っているか等について学ぶ。
 （目標（1）-1、（1）-2、（1）-3）
- 第5回：授業で何をめざすのか？（中山迅）
 授業で何をめざすのかを明確にするため、教育目標の基本的な枠組み、目標と方法の分離、目標分析、授業を通して児童生徒は何を身につけるのかについての具体像について検討する。
 （目標（1）-3、（2）-1）
- 第6回：授業をデザインするとはどういうことか？（中山迅）
 授業に必要な要素、児童生徒をどういう存在と捉えるか？、教師の役割、授業を組み立てる手順などについて学び、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点などの基本的な要素について理解する。
 （目標（1）-2、（1）-3、（2）-1）
- 第7回：単元設計・指導案・板書計画（中山迅）
 単元計画の立案、各授業の指導案と板書計画、評価計画の作成方法について学び、指導と評価の一体化について理解する。
 （目標（1）-3、（2）-1、（2）-2）
- 第8回：教育DXによる学習環境のデザイン（小林博典）
 「教育の情報化」の全体像を捉えるとともに、教育DXの視点からその推進背景を理解し、学習環境のデザインという観点を踏まえて、幼稚園教育要領や小学校学習指導要領における位置付けや意義について理解を深める。
 （目標（1）-1）
- 第9回：教師によるICT活用（小林博典）
 デジタル学習基盤を活用した効果的な教室環境づくりや教材の収集・作成について学ぶとともに、教育方法の理論を踏まえ、ICT等を効果的に活用したわかる授業・保育を実践するための方策について理解する。
 （目標（2）-1、（2）-2）
- 第10回：
【小幼コース】子どものICT活用（小林博典）
 デジタル学習基盤の活用の意義や期待される効果について理解を深めるとともに、具体的な学習場面や日常的な活用を通して、ICTの基本的な操作を習得させることの意義や、その指導方法について理解する。
 （目標（3）-1）
【幼保コース】幼児教育現場におけるICT活用（中山迅）
 幼児教育や保育の現場におけるICT活用の現状について理解する。校務の情報化により、教職員がICTを活用した情報共有を行うことや、校務の軽減に活用するなどの実例を学び、理解を深める。
 （目標（3）-1、（3）-2）
- 第11回：
【小幼コース】教科を横断した情報活用能力の育成（小林博典）

	<p>小学校における情報活用能力の育成について、国内の動向を踏まえて理解を深めるとともに、教材開発の在り方に着目し、各教科・領域で活用する教科横断型の教材の特徴と活用方法を捉える。 (目標 (3) -1)</p> <p>【幼保コース】 幼児教育現場における視聴覚メディアの活用 (中山迅) 幼児に対する指導場面でICT機器を活用していく可能性について学ぶ。幼児教育や保育の現場で活用されている視聴覚メディアについて概観し、デジタル、電子紙芝居、動画教材の活用について理解する。 (目標 (3) -1、 (3) -2)</p> <p>第12回： 【小幼コース】 情報モラル教育 (小林博典) 情報モラル教育について、デジタル・シティズンシップ教育の観点から捉える必要性を理解するとともに、メディアや情報社会に関する科学的理解を踏まえ、実践例や授業づくりの考え方を身に付ける。 (目標 (3) -2)</p> <p>【幼保コース】 ICTを活用した教材の構想 (中山迅) ICTを活用した教材製作の一例として簡易な電子紙芝居、動画教材の製作を取り上げる。個人またはグループ毎に電子紙芝居、動画教材の構想を立案する。その上でPC等のICT機器を活用し、製作・実演する方法の検討を行う。 (目標 (3) -1、 (3) -2)</p> <p>第13回： 【小幼コース】 プログラミング教育 (小林博典) 小学校におけるプログラミング教育の位置づけや「プログラミング的思考」の概念について、「小学校プログラミング教育の手引」を踏まえて理解を深めるとともに、プログラミングを学ばせるための指導の手順や具体的な授業方法を身に付ける。(目標 (2) -1)</p> <p>【幼保コース】 ICTを活用した教材の作成 (中山迅) PC等のICT機器を活用し、動画教材の製作を行う。絵コンテを用意し、それぞれ電子データ上で製作を行う。 (目標 (3) -1、 (3) -2)</p> <p>第14回： 【小幼コース】 模擬授業の構想 (小林博典) デジタル学習基盤を効果的に活用した授業を構想し、指導案を作成する。その上で、教師の指示や発問を具体的に検討するとともに、児童の反応を想定しながら、模擬授業の実施に向けた準備を行う。(目標 (2) -1、 (2) -2)</p> <p>【幼保コース】 部分実習指導案の作成 (中山迅) PC等のICT機器を活用して製作した教材を用いて、幼児を対象とした部分実習指導案を作成する。その上で、模擬的な部分実習活動を行うための準備をする。 (目標 (2) -2、 (3) -1、 (3) -2)</p> <p>第15回： 【小幼コース】 模擬授業の実施と検討 (小林博典) デジタル学習基盤を活用した模擬授業をグループ内で実施し、各自の実践について良かった点や改善点を整理・交流するとともに、その成果を全体で共有する。 (目標 (2) -1、 (2) -2)</p> <p>【幼保コース】 模擬保育活動の実践と検討 (中山迅) グループで模擬保育活動の実践を行う。振り返りを通して、幼児教育におけるICT活用の効果と課題を協議し、理解を深める。 (目標 (2) -1、 (3) -1、 (3) -2)</p>
<p>授業外学修時間の確保について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>毎回の講義では、事前学修として、講義前に配布されたプリントやGoogle Classroom、ロイロノートに掲載された資料、指示された教科書・参考書を読み、重要な個所についてマークするなど事前に把握・勉強しておくこと。また、事後学修として、講義で学んだことはカラーペン等でマークし、さらに板書等を書きこみ、要点等を整理して一冊のノートにまとめること。また、毎週土日に必ず振り返りを行うこと。</p>
<p>学生に対する評価</p>	<p>定期試験 (40%)、レポート (40%)、授業内課題提出 (20%) を総合して評価する。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。Google Classroomを活用してコメント返信することがある。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。</p>

テキスト	適宜、講義で配付する。
参考書・参考資料等	参考書： ・稲垣忠編著 教育の方法と技術 Ver.2 IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び 北大路書房 ・小学校プログラミング教育の手引き（第三版）文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20200218-mxt_jogai02-100003171_002.pdf
担当者からのメッセージ	
オフィスアワー	中山 迅： 授業後、あるいはメールにて対応する。 小林博典： 授業後、あるいはメールにて対応する。
備考	担当形態 複数オムニバス